

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第1号】 2011年12月9日発行

遠野拠点 最近の動き

冬期「孤独死」「自殺」リスクへの警戒
遠野市や現地で被災地支援に関わる組織では、クリスマスや年末年始の時期に被災された家族を失った方々が孤独感を深めやすく、また親戚などの日常の支援者も忙しくなる事で「孤独死」や「自殺」のリスクが高まったとの阪神や新潟の震災の教訓をふまえ、初めての冬を迎えるにあたり支援の対策強化の必要性が高まっています。

応急仮設住宅 24 時間体制の支援構築
被災された方々の生活支援を行う組織の中には、仮設の空部屋に支援関係者を常駐させる体制を準備している他、さらにボランティアスタッフを増やすことで、冬が深まり外出が滞りがちになる方々への支援体制を強化しようとしています。

引き続き、生活相談員、保育士は不足、ボランティアも不足

現在、復興支援に関わるプロジェクトでは、被災地雇用（被災地での事業実施の際、現地被災者を優先的に雇用する）に重点を置き、生活相談員や保育士などの専門職や、その他の業種での雇用も進められています。大槌町では、まだまだ必要なスタッフ数の確保には至っていないとのことで、生活相談員や保健士など福祉関連の支援スタッフのサポートの面でも、引き続きボランティアの力が求められています。

【遠野を拠点とした後方支援】復興支援スタッフ募集について
～立命館よりクリスマス&年末年始のボランティアを派遣します！～

立命館災害復興支援室はこの間の取り組みを通し、活動拠点の一つとして岩手県遠野市との連携を深めてきましたが、被災地支援の冬季の状況を踏まえ、今後、遠野市を拠点とした復興支援を継続的に行うことを検討しています。

そこで今回、被災された方々が孤独を深めやすいクリスマスと年末年始の期間、被災された方々の生活に寄り添い、応援する

ことを目的とした「復興支援スタッフ（ボランティア）」を派遣することとしました。現地では高齢化や大学の立地が少ないことから、大学生のボランティアは「来てくれるだけで地域が活気づく」など歓迎の声が多く聞かれます。

参加にあたっては、これまでのボランティア経験や、特別な特技等は特に必要ありません。立命館の学生として、被災された方々がクリスマスや年末年始を少しでも楽しく過ごせるよう貢献したいと考えているみなさんのご応募をお待ちしています。教職員でボランティアに参加したい方のエントリーも歓迎します。



【日程・内容】
第1陣「クリスマス」便
12/21（水）-12/27（火）
「サンタが100人やってきた」プロジェクトへの参加、避難所で暮らす方々へのプレゼントのお届け、催しサポート等を予定

第2陣「年末年始」便
12/28（水）-1/3（木）
避難所で暮らす方々の年末年始の生活や、餅つき等の季節の催し支援等を予定

【募集定員】
同行職員（最低1名）を合わせ各便20名

【費用】
参加費としての徴収は行いません。ただし現地活動にかかる実費（ボランティア保険代、食費、銭湯代等：12,000円程度）負担あり。宿泊は無料ですが、現地ボランティア宿泊所を利用します。「冬物寝袋」の持参が必須です。（ ）

【募集の開始と締切】12/9（金）より先着順で定員に達し次第受付を終了します。

【実施概要】災害復興支援室HPからダウンロード、もしくは立命館ボランティアセンター（衣笠・BK C）で書類を配布しています。

【手続き】ボランティア保険（天災プラン）加入、誓約書の提出など。詳細は「実施概要」をご確認ください。

申込みは、実施概要に記載のQRコード、P C申込みフォームにて先着順で受付ます。協力団体：「遠野まごころネット」と「サンタが100人やってきた」プロジェクトについて <http://tonomagokoro.net/>

（ ）教職員の皆さま～学生用【寝袋（冬物）】提供に関するお願い～
被災地へ学生の派遣の際は、現地ボランティア宿泊所の利用を予定しています。宿泊所では冬物の寝袋の持参が必須です。その為、今後、寝袋を持たない学生のために「冬物寝袋の提供」にご協力いただける教職員、物資提供に関わる情報をお持ちの方は、災害復興支援室までご一報いただければ幸いです。

遠野分室レポート

～最新の主な情報をお知らせします～

遠野市「地域づくりサポート事業」
遠野市では、大槌町、陸前高田市、および遠野市内の避難者間のネットワーク形成、および全国のN P Oやボランティア、復興支援に関わる企業など地域外の団体とのコミュニケーションをはかるため、各地域の特色にあった地域づくりを行う「地域づくりサポーター」を2011年度1月～3月の沿岸広域局補正予算を活用し雇用します。雇用は、被災者を中心に180名を目指しており、今後の地域形成の支援を図るため各地へ派遣される予定です。
遠野市における担当部署：産業振興部地域連携雇用推進室

京都でできる復興支援：防災科学技術研究所「思い出の修復」学生ボランティアを募集
陸前高田市を拠点に、写真やネガなどの思い出の品の修復、防災教材の開発に取り組む防災科学技術研究所では、引き続き企業からの支援を受けながら、写真等の洗浄・修復作業を行っています。本プロジェクトでは現在、京都でこれらの作業をお手伝いくださるボランティアを募集されています。参加してみたい方は、災害復興支援室までご一報ください。

11/23 岩手県校友会

「沿岸地区校友会」に参加

11/23月（水・祝）に岩手県陸前高田市の鳴石が丘会館において岩手県校友会『沿岸地区校友会』が開催されました。同校友会は校友会東日本大震災復興支援特別委員会が策定した復興支援事業を活用し、岩手県校友会によって企画・実施され、来賓を含む11名の参加があり、校友・父母課（古石課員）、災害復興支援室（北川課員）も出席しました。

出席校友からの自己紹介では、地震の震災体験のお話も交え校友の近況をお聞きしました。会場には被災し亡くなった校友の奥様もおられ、ご挨拶に続き、懇談の場で近況をお話しいただきました。

「今日までたくさん泣いて辛かったが、最近はあまり泣かなくなってきている。こうして少しづつ忘れていくのかと思うと寂しさを感じる。」とお話に、立命館として、関西からできる支援として、震災の経験を風化させない事の大切さを再確認する機会となりました。



12/3.4 応用人間科学研究科

「東日本 家族応援プロジェクト in 福島」開催

応用人間科学研究科が主催する「東日本家族応援プロジェクト in 福島」が開催されました。9月の青森県むつ市、11月の岩手県遠野市に続く福島での開催となり、今回も「家族漫画展」、子ども向けの「遊びのワークシ

これからの主な取り組み

未来プロジェクト第6回フォーラム開催

日時：2011年12月16日（金） 15:00～
テーマ：「東日本大震災を受けて、環境・食料を考える」
参加費：無料

場所：（BK C）サイエンスコア5階第4会議室 / （衣笠）敬学館251教室

災害復興支援室・年末年始のボランティア派遣

第1陣「クリスマス」支援便・・・12/21（水）-12/27（火）

第2陣「年末年始」支援便・・・12/28（水）-1/3（木）

募集：12/9（金）より開始、先着順で受付します。

<それぞれの取り組みの詳細については、今後、HPや瓦版でお伝えします>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。



の方々向けの「支援者支援セミナー」も開催されました。支援者支援セミナーでは、現在の状況や援助者としての悩みについて、それぞれの思いを語ることから始め、日頃、支援者として他者に向け続けている気持ちを、この時間は自分自身にむけながら、そうした時間の重要性について互いに学びあう機会となりました。遊びのワークショップでは、村本応用人間科学研究科教授やスタッフがリードし、子どもたちやその家族の方々が楽しくクリスマスカレンダーづくりに挑戦しました。12/3に災害復興支援室からも今村部長が参加しました。

12/4 日本プロ野球選手会との復興支援活動

12/4日（日）、立命館が包括協定を結び、日本プロ野球選手会が主催する被災地復興支援イベント「ベースボールクリスマス in いわき」、「ベースボールキャラバン in 岩手」が開催され、プロ野球選手、プロ野球OB、女子野球日本代表選手、プロ審判員の方々が被災地の子どもたちとキャッチボールなどの交流会を行いました。当日の様子は学園HPピックアップでも紹介されています。ご覧下さい。
http://www.ritsumeijp/pickup/detail_j/topics/9738/date/12/year/2011

<立命館の学生がスタッフとして参加>
ベースボールキャラバン in 岩手には、スポーツ健康科学部の学生6名が、ベースボールクリスマス in いわきにはBK Cのスポーツサークルの学生13名がプロ野球選手



やプロ野球審判によるキャッチボールイベントのサポートを行い、現地の子どもたちとふれあいました。当日は学生とともに災害復興支援室、広報課、校友・父母課のスタッフも参加。災害復興支援室のスタッフは「岩手県では、陸前高田市、大船渡市の2箇所で開催が実施され、あわせて600名近くの野球少年や市民の方々が会場に集まってくださいました。子どもたちはプロ野球選手にボールをキャッチしてもらい、本物のプロ野球審判が「ストライク！」とコールすると、とてもうれしそうにしていたことが印象的でした」と振り返っています。



1/6-9 福島から避難された方々を応援

『おこしやす癒しやす京都』

産業社会学部では、東日本大震災にかかわる授業を開講するなど、震災に関する研究とともに、講義を受講する学生たちとともに様々な活動を実施されています。そのひとつとして、2012/1/6（金）～1/9（月）に『おこしやす癒しやす京都』と題し、福島で被災された方々を対象とした支援企画が実施されます。京都に避難してきた被災地の小中高校生を招いて、大学生や京都に避難してきた被災地の人々と共に京都ならではのイベントに参加・体験してもらうことで、心身共にリフレッシュいただき、励ます機会にしたいという企画です。詳細の内容は、災害復興支援室HPでもご紹介しています。
<http://www.ritsumeij.ac.jp/rs/20110311/>

編集後記

盛り沢山の内容の第1号となりましたが最後まで読んでいただけましたでしょうか？引き続き、みなさんの震災に関わる取り組みといった情報とともに、ご意見・ご感想ぜひお寄せください。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第1号】

発行人
編集 立命館災害復興支援室
075-813-8130（総合企画課内）
メール 311fukko@st.ritsumeij.ac.jp